

## 1月定例記者会見の概要

1.日時 平成31年1月7日(月)9時30分～10時00分

2.場所 本庁舎3階 第一会議室

3.出席者 <報道機関>

朝日新聞社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)

NHK南相馬報道室 (南相馬記者クラブ会員)

河北新報社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)

共同通信社 福島支局 (南相馬記者クラブ会員)

毎日新聞社南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)

読売新聞社南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)

福島民報社南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)

福島民友新聞社相双支社 (南相馬記者クラブ会員)

みなみそうまチャンネル

計 9 社

<市側>

市長 林副市長 松浦副市長 教育長

小高区役所長 鹿島区役所長 総務部長 復興企画部長

市民生活部長 健康福祉部長 健康福祉部理事 経済部長

建設部長 総合病院事務部長 小高病院事務部長

教育委員会事務局長

計 16 人

(司会進行)秘書課長

(会議記録)秘書課広報係

### 【市政報告】

記者の皆様、新年明けましておめでとうございます。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

さて、皆様は新年をどのように迎えられたでしょうか。私は、年末年始公務を離れ、家族とゆっくり過ごすことができました。家族や友人と安心して暮らせるまちづくりが、改めて大切だと思いました。市民の皆様も、こうした時間を過ごせるよう環境作りを進めなければならないと感じました。

昨年1月の初登庁から間もなく1年となります。おかげさまで市政を1年無事に運営することができました。改めて皆様方へ御礼を申し上げます。

さらに昨年1年間は、節目となる行事が多くあった年でした。

最も思い出深かったのは、6月に開催された「第69回全国植樹祭」です。平成最後の開催となる全国植樹祭に、天皇皇后両陛下をお招きすることができました。

天皇皇后両陛下がお手植え・お手播きされたお姿は、今でも思い出されます。

生ひ立ちて 防災林に育てよと クロマツを植う 福島の地に

天皇陛下が全国植樹祭の情景を詠まれた、御製を年末に賜りました。平成最後の、記念すべき全国植樹祭のメイン会場が本市となり、天皇皇后両陛下にご訪問頂いたことは、私のみならず、広く市民の間においても、後世に語り継がれる行事となることと思います。さらには、市の植樹祭を記念事業として続けていきたいと思っています。

また、昨年7月から一部施設の供用が始まっている福島ロボットテストフィールドが、年末に「空飛ぶクルマ」の試験飛行の拠点に位置付けられました。2023年の実用化を目指し、今後、空飛ぶクルマの試験が実施されます。本市を拠点に開発される新技術が、近い将来、世界中の大空へ羽ばたいていくことを想像するだけで夢が広がります。

今後は、ロボットテストフィールドを核とした新産業創出と人材誘導を、復興総合計画 後期基本計画の復興重点戦略として位置付けたいと考えています。

さらに12月には南相馬市産の新米が、市内小・中学校の給食のご飯として加わりました。子供達もおいしいおいしいと、あつという間に目の前のご飯をたいらげていました。元気な子供たちの姿を見て大変嬉しく思いましたし、今後も安全性の保障された市内産米の導入を、食育の推進の観点からも継続していきたいと思いません。

旧避難指示区域における話題として昨年8月には、小高スマートインターチェンジの事業実施の前段となる、国による「準備段階調査」を行う方針が示されました。

さらに12月には、「小高ストア」が開店となり、昨日でオープンから丁度1カ月を迎えることができました。今後も事業者と共に、地域の方々が利用しやすい環境づくりや品揃えを進めていきたいと考えます。

これに絡み今年、小高区復興拠点施設「小高交流センター」が、1月26日(土)に開所することが決定しました。開所日には、小高ストアと同様に、多数のご来賓にご臨席いただけるよう、現在調整を進めているところです。お子様連れから高齢者まで、幅広い世代や地域間の交流場所として施設を開放し、民間事業者にも飲食物の提供や物販に参画してもらうこととなっています。復興拠点を核として地域コミュニティの再構築や、旧避難指示区域の再生の実現を目指し、有効な施策の構築に努めます。

1月23日(水)には、ソーラーパワー南相馬・原町株式会社による「南相馬原町東太陽光発電所」の竣工式が行われます。鹿島区の南相馬真野右田海老太陽光発電所に次ぐ竣工となり、敷地面積約46ha、発電規模約3万2,300kWの発電所となります。本発電所が運転開始したことによって、本市における電力消費量の概ね50%が再生可能エネルギーで生み出されることとなります。市では、今後も再生可能エネルギー推進ビジョンに基づき再生可能エネルギーの導入を進めてまいります。

今年の夏には、これまで休止していた北泉海水浴場が再開します。震災後、北泉のにぎわいを取り戻すべく、これまでも、サーフィン大会などが開催されてきました。海浜総合公園一帯の整備も完了していますので、震災前のような人でにぎわう

北泉海岸の夏となることを期待いたします。

先月、復興総合計画 後期基本計画については、パブリックコメントを実施するとともに、その間、区ごとに市民説明会を開催しました。現在、いただいた意見や提案を反映するべく、南相馬市総合計画審議会と各区地域協議会への諮問に向けて取りまとめを行っています。地域との対話を経て策定した本市の将来の姿を、間もなく記者の皆様にお示しできるものと考えています。

本年も市民の皆様との対話を基調とした、本市の復旧・復興にまい進してまいります。精一杯市政の推進に努めてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻をいただければありがたく存じます。

私からの報告は以上です。各部長による報告のあと、皆様からのご質問をお受けいたします。

#### 【各部からの報告】

小高区役所

・小高区復興拠点施設「小高交流センター」に係る開所式典等の開催について  
復興企画部

・南相馬原町東太陽光発電所竣工式の開催について

市民生活部

・平成31年南相馬市成人式の開催について

#### 【質疑応答】

質問1：

原町東太陽光発電所竣工式に関連して、資料3枚目に記載されている再生可能エネルギー発電所が、来年4月以降全て稼働した場合、目標の割合はどの程度になりますか。

回答1：復興企画部長

計画している全ての発電所が稼働した場合の再エネ導入比率は、企業分も含めた市内電力消費量の70%相当となります。

一般家庭分に換算すれば、既に100%を超えており、市内約2万6,000世帯分の電力をまかなえる分の再生可能エネルギーを発電していることとなります。

質問2：

市が目標とする数値の残り30%はどのようにまかないますか。

回答2：復興企画部長

市の計画ではないものの、民間企業が八木沢・国見山に風力発電所を建設する計画があります。この風力発電所が稼働することによって目標の100%に近づいていくものと考えています。事業主体は、万葉の里風力発電所と同じ日立を中心とした企業体で事業を進めているとの情報です。

ただし、電力消費量の推計では、人口は減っているものの、電力消費量は増加しています。中でも事業者の電力消費量が増加していますので、市内の再生可能エネルギーの発電量が目標に追いつけるかというところは不透明です。

なお、八木沢・国見山での風力発電事業は、現在環境アセスメントの手続きを行っているところで、具体的な完成時期は未定となっています。

**質問 3 :**

小高交流センターについて、この施設が小高区の復興にどう寄与するのか教えてください。

**回答 3 : 市長**

この施設は、賑わいの拠点として計画したものです。旧避難指示区域の賑わいの中心として、あるいはコミュニティの中心の場として運用したいと考えています。(施設の)完成はスタートだと考えていますので、いかにここを拠点としてまちづくりを進めていくか賑わいを取り戻し、人の話し合いの場やコミュニティの中心の場として市の事業の中でも活用したいと考えています。

**質問 4 :**

小高交流センターについて、施設利用者の見込み数を教えてください。また、駐車可能台数が少なく感じますが、今後、増設の計画はありますか。また、バス、タクシーの乗り入れなどの連携はお考えでしょうか。

**回答 4 : 小高区役所長**

利用者の見込み数については、資料の手持ちがないため後ほどお知らせします。

**回答 4 : 市長**

駐車場の台数に関しては、以前から議論があったところであり、この内容で計画が始まっているため、現時点で増設の計画はありません。近隣の駐車場と連携して活用を図るのも一つの手段と思います。自家用車で来られる方ばかりとは限らないため、そういった方たちが不便にならないように運営していきたいと思っています。バス、タクシーの乗り入れについて民間事業者との連携はありませんが、タクシーを使って来訪される方もいらっしゃるでしょうし、場合によっては公用車を使った送迎も検討しているので、そういったことを織り交ぜて考えていきたいと思っています。

**回答 4 : 補足説明**

来客見込数 7万7,000人(年間)

**質問 5 :**

海水浴場の再開に向けて、動き出している準備はありますか

**回答 5 : 市長**

これまで市では、安全に海水浴場を運営できるように、監視体制に重点を置き運営してきました。監視体制を取るには予算化が必要となりますので、新年度に向けて予算を計上するところです。

**回答 5 : 経済部長**

震災前は安全対策に重点を置き、地元サーフィン愛好会に事業委託し、見守りをしてきました。海開きの日程については、今後決定するところですが、海開き前に(監視業務を委託する)組織の立ち上げを図りたいと考えています。

**質問 6 :**

環境省が計画を進めている除染土壌の公共事業での再利用について、実証試験予定地の住民の間では一部反対の声が出ていますが、市ではどのような対応を取りますか。住民説明会自体の開催を反対されていると聞きましたが、市として説明会の

開催を協力する予定はありますか

**回答6：市長**

新聞等の報道によって（一部反対の声を）伺っているところです。年末に環境省から説明を受け、環境省が地元で説明に入っていると理解しています。地元の理解を得ながらということなので推移を見守ります。

また、環境省から住民説明会の開催に関する協力要請など、具体的な話は来ていませんが、環境省も説明会を行いたいと言っており、住民の理解を得ることは大事なので、市としても行ってくださいと申しています。

**質問7：**

問6に関連して、環境省は市に対し土壌の再利用について2回ほど要望していると思いますが、市は、土壌の再利用が小高区以外に広まった時にどう対応していくのでしょうか。

**回答7：市長**

環境省では、8月に実証事業実施に向けた協力要請があり、12月には実証事業案の説明がありました。

再生利用に向けた国の方針は私も理解しています。そういった意味で、実証事業に対する否定はしません。

ただし、基準が決まっていない中での再生利用は問題外だと思っています。これは、議会に対しても同じ説明をしているところです。事の成り行きを見守っているところであり、住民理解が得られるかどうかが大変だと思っています。

その上で、手順を確認するための実証事業案の説明であり、市民の皆さんと相談しながら進めていきたいと考えています。